

救出・救護訓練台本

<平成24年度秋の防災訓練>

配役

救出班	1班		2班
救出班長	勝山 登	救出班の指揮、本部との連絡	森本 裕
副班長	山田善久	ジャッキ係	明石 修
2番手	斎藤庄司	ジャッキ係	野口悠輝
3番手	高澤盛二	チェーンソー係、緊急避難指示係	今野 昭
4番手	勝山 清	消火器係	
救護班			
救護班長	池田俊子	救護班の指揮・救護	
助手	千葉 満	救護助手	
模擬被災者	石田富太郎 ダミー人形	石田 富次郎	

訓練支援要員

ナレーション	渡辺富美子
災害対策本部	
情報連絡班	無線通信係 芦名 正人
状況現示係（火災状況の現示）	本間健一
拡声支援係	△△△ ▽▽▽
となり組代表	岩崎道治
被災者搬送協力者	〇〇〇

実線枠内はナレーション、破線内は状況説明。セリフは適宜アドリブで・・・

本日の訓練の想定を説明します。

早朝の大地震により、栗田地区は古い家屋で、耐震工事をしていない家屋は、大部分が倒壊又は半倒壊の様態です。電気、ガス、水道等のライフラインも停止しました。固定電話は不通となっています。また、携帯電話もかかりにくくなっています。

町内の自主防災組織は、本部を町内会館に開設するよう準備中です。一部の自主防災組織要員は、町内会館に集まりつつあります。

町内において現在、火災の発生は見られません。

倒壊家屋では家族で安否の確認、屋外への避難、けがの応急手当・救助が行われています。身体に被害がなかった人や軽傷の人は、となり近所で安否の確認や、救助活動を開始しました。

自主防災組織の救出班・救護班は、ともに一部の要員が町内会館に集結し、救出用資器材等を準備中です。

栗田1丁目7番、8番の防災となり組から町内会に対して、倒壊家屋の下敷きになっている被災者がおり、救助を求める連絡が入りました。

栗田1丁目7番、8番の防災となり組から町内会に対する連絡は、電話が不通のため、徒歩（駆け足）により、開設準備中の災害対策本部へ通報されたものである。

災害対策本部長（職務代理者）は、出勤準備中の臨時編成の、救出班・救護班に救助出勤を命じました。救護班長は、一部の救護班及び救出班要員とともに、直ちに被災現場に出勤します。

救護班長ほか4名が1丁目2・3番の被災現場に到着する。（携行品：担架、救急箱）

被災現場に到着した救護班長は、待ち受けていたとなり組代表の犬塚さんから、被災状況について報告を受けます。

となり組代表（岩崎道治）

「1丁目7番・8番となり組の犬塚です。

ここでは2軒の家が大きく倒壊しました。

1軒の方は、濱田さんが梁の下敷きになっているらしく、人力ではとても助けることができません。

もう1軒の方は、石田富太郎さんですが、我々でガレキを取って、助けようとするのですが、本人が痛がって身体に触れさせてくれません。看護師さんなら承知すると思いますのでお願いします。

救護班長（池田看護師）

「分かりました。やってみます。家から運び出すとき手を貸してください。」

救護班長は、報告を聞きながら、2軒の被災者の様子を確認し、一方の救出は後から来る救出班に委ねることにし、まず直ぐに救出できる方の被災者を救出することにしました。

救護班長（池田看護師）

「石田さん、石田さん、看護師の池田です。安心してください。
足以外に頭や他の部分はぶつけていませんか？足に触りますよ。」

被災者石田(石田富次郎)「い・痛い！・・・ 膝が・・痛い・・・」

救護班は、被災者石田富太郎を倒壊家屋から運び出し、応急処置を実施する。

石田さんは、ガレキで足を強打した様子で、痛みを強く訴えています。さらに地震の恐怖が重なりパニック状態に陥っています。

救護班長（池田看護師）

「石田さん、足首を動かしてください。しびれがありますか？
もう大丈夫ですよ。副木をしましょうね。頑張ってください。」

救護班は、被災者石田富太郎を倒壊家屋から運び出し、応急処置を実施する。

被災者が無事救出されました。看護師・救護班による救急処置が行われます。
ここでは、頭部の打撲の恐れがあるため、先ず意識の状態の確認を行い、次いで打撲部位の確認、ガレキによる圧迫の様子などについて手早く確認と必要な応急処置を行います。

被災者 石田富太郎さんは幸い怪我の状態は軽く、後ほど震災時避難所に運ばれ手当を受けることになりました。石田さんは自主防災組織の避難誘導班に引き継がれます。
救護の状況はこれをもって終了します。

救護班の応急処置は、後続の救出班主力（防災車）が到着するタイミングで終了する。

これから救出活動を行います。救出班長は、準備中の班員に準備が出来次第、速やかに現場に来るよう命じ、副班長と共に被災現場に急行しました。
被災現場に到着した班長は早速、救出方法・救出口をどこにするか探索しつつ、となり組代表から、被災者の人数、怪我の様子などについて報告を受けます。また、副班長に命じて余震が発生した時の、緊急避難場所を選定させます。

となり組代表（岩崎道治）

「1丁目7番・8番となり組の犬塚です。被災者は濱田源蔵さん。

80歳ぐらい 一人暮らしで来訪者はいなかったようです。

身体が梁のようなものに挟まれているらしく、動けないようです。呼び掛けには応じるので意識はあります。早く助けてください。よろしくお願いします。」

救出班長（勝山 登）

「解りました。一人ということは確かですか。」

となり組代表（岩崎道治）

「はい、それはこちらからの「一人か？」との問いかけに、はっきり答えが返ってきますので間違いのないと思います。」

救出班長（勝山 登）

「了解。引き受けました。後は我々でやります。有難う。」

となり組代表（岩崎道治）

「よろしくお願いします。病院へ搬送の車を山田さんが出してくれますので近くへ準備します。」

救出班長（勝山 登）「よろしく頼みます。」

こうして、となり組代表から状況を聞いた班長は、被災者を励まし、救出方法・救出口、余震時の緊急避難場所を決定します。
準備を終えた救出班が防災車とともにたどりま到着しました。

救出班長 救出場所を決める。

救出班長（勝山 登）「高澤さん、この場所を開口しなさい。」

チェーンソー係（高澤盛二）「了解、開口します」

救出班長（勝山 登）「山田さん、緊急時避難場所を選びなさい。」

副班長（山田善久）（全員に分かるように）「了解、避難場所はここにします」

全員「了解！」

救出班長（勝山 登）「山田さん、斉藤さん、ジャッキを持って被災者のところへ。」

ジャッキ係（山田善久）、（斎藤庄司）、「了解、入ります。」

被災者に声かけし、励まし続ける。

救出口は、最も安全に、より早く容易に救出できる個所を選定します。この倒壊家屋では壁を切断して救出口を開き、救出する方法が選ばれました。

- ・この間、ジャッキ係は救出用の器材（担架、毛布等）を防災車から降ろし、配置。
- ・救出口が完成したらジャッキ係2名は被災者の元へ進入。
- ・被災者の状況について救護班長とジャッキ係とのやりとり
- ・がれきを除去し、倒壊した梁等にジャッキをかける。

《状況付与「余震発生」》（状況付与：防災部長） 予め選定した安全地域へ緊急避難。

救出班長

救出班長（勝山 登）「余震発生全員避難しなさい。」

全 員 「了解、避難します。」

今、余震が発生しました。かなり揺れています。救出班は救出作業を中止し、直ちに緊急避難場所へ避難します。

《状況付与「余震鎮静」》（状況付与：防災部長） 救出行動の再開

余震が止んだようです。救出作業が続行されます。ガレキなどで被災者の動脈が圧迫され、血流が止まっていた場合は、救出作業に並行して止血の応急処置を行います。

救出班長（勝山 登）「余震鎮静、作業再開。」

全 員 「了解、作業再開します。」

《状況付与「火災発生」》

（状況付与：防災部 本間 近傍で発炎筒により火災発生を現示する。

救出班長（勝山 登）「火災発生！高澤さん、勝山さん 消火作業開始、救出作業は継続」

消火器係（高澤盛二、勝山 清）「了解、消火作業開始」

今、火災が発生しました。救出班は準備した消火器により消火します。火災の規模が小さく消火の見込がつく場合は、班長の判断で救出作業は続行されます。

消火器係 2 名は、協力して消火作業を実施する。
間もなく鎮火する。

消火器係(高澤盛二、勝山 清)「火災鎮火しました。」
救出班長(勝山 登)「火災鎮火 了解」

《火災状況終了》 救出行動を継続
まもなく倒壊家屋から救出完了 担架に収容 救護班による応急手当 無線により本部へ報告

救出班長(勝山 登)「本部、本部こちら第 1 現場、只今救出完了。
被災者濱田源蔵さん、怪我の程度、大腿骨骨折、腰部打撲の模様、支援者の車で久里浜病院へ搬送する。おわり」
本部情報連絡班(芦名正人) 「了解、おわり」

この間に病院への搬送車手配。応急手当完了。 搬送車まで担架搬送。

応急手当が終了しました。
被災者はとなり組協力者のワゴン車で病院へ搬送されます。

池田看護師から救出時の応急手当について説明

被災者のからだの一部がガレキ等の圧迫により血流が停止していた場合のクラッシュシンδροームの予防処置について説明する。

全状況終了

以上を以って救出訓練の状況を終了します。
皆さん、寒い中、最後まで熱心に見学いただき有難うございました。これを以ってナレーションを終了いたします。